

Vol.105

Vol.105 (2025年 冬号)

PMI 日本支部 ニュースレター



Best Practice and Competence / PM 事例・知識 ... 3

Stakeholders / 法人スポンサー紹介 25

PM Calendar / PM カレンダー 29

Fact Database / データベース 30



Project
Management
Institute.
Japan

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告 3
PMI Japan Festa 2025 統括PM セミナープログラム 川野 琢也
- ◆ 関西ブランチ創立15周年記念 イベント ～ PMわくわくフェス ～
結果報告 14
PMI日本支部 関西ブランチ 運営委員会 代表 伊達 渡
- ◆ プロジェクトふりかえりワークショップ（京都光華女子大学）2025 報告 18
PMI日本支部 関西ブランチ PM実践研究会 山本 智子・後藤 裕香里
- ◆ 委員会・部会活動内容紹介 21
 - ・ PMBOK® セミナープログラムのご紹介
PMI日本支部 PMBOK® セミナープログラム 代表 藤田 廣昭
 - ・ 【セカンドライフを豊かに！】シニアコミュニティのご紹介
～ 迷いや不安を希望に変える「語り」と「実践」の場 ～
PMI日本支部 シニアコミュニティ 代表 大久保 剛

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

- ・ テクノシステム株式会社 25

PM Calendar / PM カレンダー 29

- ・ PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 30

PMI 日本支部ニュースレター Vol.105 2025年12月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

◆ 商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告

PMI Japan Festa 2025 統括PM
セミナープログラム 川野 琢也



揺らぐ時代をプロジェクトの力で切り開く
～ 日本型PMの再起動と、世界へつながる挑戦 ～

日 程：2025年11月22日(土)～12月21日(土)

テ ー マ：揺らぐ時代をプロジェクトの力で切り開く
～ 日本型PMの再起動と、世界へつながる挑戦 ～

講演形態：リモート配信

2025年11月22日(土)～11月30日(土)

全10講演

- | | | |
|---------------|---------------------|-----|
| ① 会場＋リアルタイム配信 | 11月22日(土) | 5講演 |
| ② リアルタイム配信 | 11月23日(日) | 5講演 |
| ② オンデマンド配信 | 11月24日(月)～12月31日(水) | |

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告

講師一覧

日付	No.	講師	所属	講演テーマ
11月22日	1	若杉 忠弘 様	グロービス経営大学院 教員/シニア・ファカルティ・ディレクター	燃え尽きずに成果を出すセルフ・コンパッションの技術
	2	宇野 智之 様	株式会社モンスターラボ 取締役	The Power of Borderless —— 越境から生まれる価値と未来
	3	伊藤 大輔 様	プロシアホールディングス株式会社 代表取締役社長	元サラリーマンPMが1人起業し総年商●●億・総社員●●●名の経営者に —— ブレイクスルーした「PM+Xスキル」
	4	山田 淳 様	株式会社フィールド&マウンテン 代表取締役	日本の自然の価値を世界へ —— その組織づくりと私の挑戦
	5	井口 恵 様	株式会社Kanatta 代表取締役社長	ドローンと宇宙に挑む女性コミュニティの軌跡 —— 逆境を力に変えるマネジメント術
11月23日	6	森 隆信 様	株式会社瀬戸酒造店 代表取締役	千鳥足ぐらいがちょうどいい、これからの時代のリーダー像
	7	榊 亮 様	ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ 代表取締役社長	プロジェクト成功の“最後のピース” —— 変革を導く「X人材」の本質に迫る
	8	近藤 佑太郎 様	株式会社Unito 代表取締役	大手企業と共創し、ビジョンを実現する —— スタートアップ企業Unitoが実践するホスト型リーダーシップとは
	9	武田 正文 様	浄土真宗本願寺派 高善寺(島根県邑南町) 住職	AIと他力 —— 予測不能な世界を生き抜く仏教的思考法
	10-1	PM Award Small & Medium部門 横山 暁一 様	合同会社en.to 代表社員	en.to(えんと)：縁を育み地域と人をつなぐ、滞在型交流拠点プロジェクト
	10-2	PM Award Large部門 大竹 尚登 様	東京科学大学 理事長	東京医科歯科大学と東京工業大学の統合による「東京科学大学」の設立

◆はじめに

16回目を迎えた PMI Japan Festa。テーマは「揺らぐ時代をプロジェクトの力で切り開く ～日本型PMの再起動と、世界へつながる挑戦～」です。いま求められるのは、変化を機会ととらえて成果へつなげる力。そのために重要なのが、共に考え、対話を重ね、最適解を探し続ける「ホスト」としてのリーダーシップであり、それこそが、日本型PMが持つ協調性を再起動し、世界へ広げていく力になると考えました。

今回も2日間のうち、1日目を会場とオンラインのハイブリッド開催とし、オンラインの良さと現地ならではの醍醐味

をご提供できるようにしました。また、「PM Award 2024」の最優秀賞（Small & Medium部門、Large部門）受賞者による講演も恒例となり、これらを含めた10組の各界のリーダーのご登壇で、今年も成功裡に終わることが出来ました。

◆運営面での趣向

企画・運営にあたるセミナープログラムの準備活動ぶりや、講師との事前リハーサルの様子などをコンパクトにまとめた動画や、グラフィックレコーディングは今年も好評いただきました。



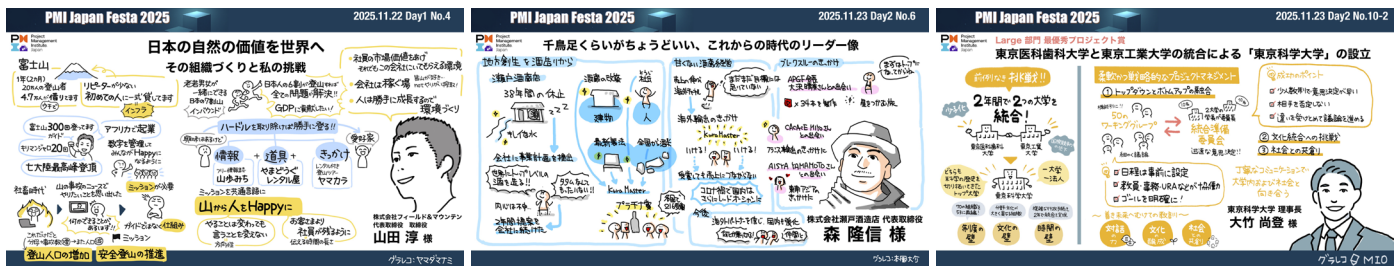
開幕時の放映動画



講演風景

Best Practice and Competence/PM 事例・知識

■「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告



グラフィックレコーディングの例

◆日本支部内外の他のイベントとのコラボレーション

昨年に引き続き今年もPM Award とのコラボレーションを行い、PM Awardでの2部門（Small & Medium部門、Large部門）におけるそれぞれの最優秀プロジェクト受賞者から、プロジェクトの内容をご紹介いただきました。

◆交流会

初日の5講演終了後に交流会を開催しました。講師の方々も参加され楽しく歓談いただきました。



◆聴講者のご意見

アンケート結果は、本稿執筆時点ではまだ集計中ですが、途中結果(121名からの回答)を見ると、「大変良かった」と「良かった」の合計が今年も99%を超えており、大好評であったことがわかります。

〔いただいたコメントの一部〕

- わくわくしながら、聞くことができました。ありがとうございました。
- 実践的な事例紹介が多く、IT以外の業種/業界のお話も聞けるのは嬉しい
- 全て参考になるお話でした。特に若手の皆さんが新しいことに積極的にチャレンジしていることが印象的でした。
- 常に時代の新しい刺激を受けています。

◆総括

2日間PMI Japan Festa 2025にご参加いただきありがとうございました。

昨年に続き、コロナ禍以降で2回目の会場開催。リモート配信を含めたハイブリッド形式の運営も、スタッフ一同で円滑な要領を体得した感があります。また、今年は新たな若いスタッフも複数名加わり、ボランティア活動そのものも活気を呈してきました。

準備から会場運営まで、また2日目のオンライン配信も含めて多大なご支援とご協力をいただきましたPMI日本支部の事務局、理事の方々に感謝申し上げます。そして何より、アキバプラザに足を運んでいただきました参加者、リモートで聴講いただいた皆さまに感謝申し上げます。

また来年、PMI Japan Festa 2026で、またディスカバリーセミナー（月例セミナーを改称します）でもお会いできるのを楽しみにしています。

以下、今回の講演について、ホームページに掲載した概要を元にご紹介します。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告

■ No.1

燃え尽きずに成果を出す
セルフ・コンパッションの技術

□ 講師：若杉 忠弘 様

グロービス経営大学院 教員／シニア・ファカル
ティ・ディレクター

□ 講演：2025年11月22日(土) 12:10～13:10

【講師プロフィール】

グローバルリーダーの育成に携わるとともに、組織におけるコンパッションやウェルビーイングの研究に従事。以前は戦略コンサルティングファームにて、全社戦略や事業戦略の立案・実行支援を通じて国内外の企業をサポート。ロンドンの教育系スタートアップを経て、グロービスでは英語MBAプログラムのディレクターや英語オンラインMBAの立ち上げを担当。



著書に『すぐれたリーダーほどやさしい』（かんき出版）、共著に『職場を上手にモチベートする科学的方法 無理なくやる気を引き出せる26のスキル』（ダイヤモンド社）がある。

一般社団法人日本ポジティブ心理学協会理事、一般社団法人人生100年生き方塾理事。マインドフル・セルフ・コンパッション講師（Center for Mindful Self-Compassion）、コンパッション開発トレーニング講師（Compassion Institute）。

東京大学工学部卒業、東京大学大学院工学修士、ロンドン・ビジネス・スクールMBA、一橋大学博士（経営学）。

【講演概要】

今、リーダーの置かれている環境は本当に厳しくなっています。

限られた人員と予算の中でプロジェクトを進め、急な仕様変更や複雑な調整に追われる毎日。どれだけ努力して成果を出しても、すぐに次の要求が押し寄せ、気がつけば心も体もすり減ってしまう……そんな経験をされている方も多いのではないのでしょうか。

こうした時代に役立つ新しい技術が「セルフ・コンパッション」です。自分をいたわりながら心身を整え、安心感を取り



戻し、自信を持って前に進むための方法です。心理学や経営学でこの20年で急速に研究が進み、世界の企業からも注目されています。

セルフ・コンパッションは「自分はダメだ」と責めるのではなく、「自分は大丈夫」と無理に思い込むのでもない、第三の道を示します。実践している人は、不安や自己批判が少なく、自信やモチベーション、他者への思いやりが高まり、リーダーシップや人生の満足度も向上することが明らかになっているのです。

本講演では、

①なぜ今セルフ・コンパッションが必要なのか

②それはどんな考え方なのか

③どう実践できるのか

を具体的にお伝えします。

プロジェクトを担うすべての方に、「燃え尽きずに成果を出し続ける」ための新しい道をお届けします。

■ No.2

The Power of Borderless

—— 越境から生まれる価値と未来

□ 講師：宇野 智之 様

株式会社モンスターラボホールディングス 取締役

□ 講演：2025年11月22日(土) 13:25～14:25

【講師プロフィール】

2003年に大手システムインテグレーション企業へ入社し、エンジニアとしてキャリアを開始。多数の開発案件を通じてプロジェクトマネジメントに従事する中で、オフショア開発における失敗と成功の双方を経験し、国境を越えて人材と協働する働き方を志向するようになる。

2015年にオーストラリア・ボンド大学でMBAを取得し、同年モンスターラボへ参画。以降、プロジェクトマネジメントや組織マネジメントに携わりながら、同社のフィロソフィー「The Power of Borderless」を体現すべく、世界20以上の拠点と連携し、多文化環境におけるプロジェクト推進を牽引してきた。2024年7月に取締役へ就任。

現在は、これまでの開発現場での経験と経営の知見を融合



Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告

させ、越境によって生まれる新たな価値創出に挑むとともに、持続的に挑戦し続けられる組織づくりを推進している。

【講演概要】

プロジェクトに多様な背景を持つメンバーが参画することは、良い機会ばかりではなくしばしば課題も生み出します。価値観や経験の違いは、意見の相違や意思決定の難しさといった摩擦を伴う一方で、それらを乗り越えたときにこそ、従来の枠組みを超える新たな発想や成果が創出されます。すなわち「越境」は、プロジェクトマネジメントにおいて不可避かつ重要なテーマといえます。



本講演では、Monstarlab が多様性を基盤に数多くのプロジェクトを推進してきた経験をもとに、境界を越えることの意味と、その中で求められるプロジェクトマネジャーの資質について考察します。国境や文化の違いにとどまらず、組織、役割、専門領域といった多様な境界をいかに乗り越え、人を巻き込みながら価値を生み出すか。その過程における困難とメリットを具体的に論じ、日本型PMの強みと「越境」の発想を組み合わせることで新しい可能性を提示します。

プロジェクトの成功において鍵となるのは「巻き込み力」であり、その源泉は境界を越えて多様な視点を統合する力にあります。本講演を通じて、参加者の皆さまに新たな示唆をお示し出来れば幸いです。

■No.3

元サラリーマンPMが1人起業し総年商●●億・総社員●●●名の経営者に

—— ブレイクスルーした「PM + Xスキル」

□講師：伊藤 大輔 様

プロシアホールディングス株式会社
代表取締役社長

□講演：2025年11月22日(土) 14:40～15:40

【講師プロフィール】

慶應義塾大学経済学部卒業後、大手マーケティングCRM企業にてグローバル案件を含む多数のプロジェクトを牽引。在職中に青山学院大学大学院MBAを首席（総代）で修了。その後退社し、日本プロジェクトマネジメントソリューションズ株式会社を1人で創業、代表取締役に就任。複数の企業設立と経営者就任を経て、現在はプロシアホールディングス株式会社 代表取締役。



国立群馬大学客員教授、青山学院大学大学院MBAプログラム非常勤講師として、次世代のリーダー育成と社会貢献に努めている。

プロジェクトマネジメントおよび新規事業分野のベストセラー著者として専門的知見を発信し、幅広い読者から支持を得る。

PMP（Project Management Professional）、CSM（Certified ScrumMaster）、MBA（経営管理修士）保持。

YouTuberとしても活動。英フィナンシャル・タイムズ紙「FT High-Growth Companies Asia-Pacific」5回受賞、日本経済新聞社「日本急成長企業2022」100社に選出。経済産業省 University Venture Grand-Prix 大賞など受賞歴多数。紺綬褒章受章。

【講演概要】

私は、かつて一人の会社員PMとしてキャリアをスタートし、単身起業を経て、現在は複数の企業を率いる経営者へと成長しました。その飛躍の基盤となったのは、会社員時代に磨き上げたプロジェクトマネジメントの知識と技術です。そこにMBAで培った経営学の知見、関連する多様な学問領域

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告

プロジェクトマネジメント+「Xスキル」で成果をブースト

- プロジェクトマネジメントの成果にさらにレベルアップを助けた「Xスキル」(知識・技術)を紹介する。
- 時間の関係で、効果が高かった一部のものを厳選してお伝えする。
- ぜひ何かの参考になり、皆様の益々のご活躍とご発展に寄与できれば幸いです。

**信じるか、信じないかは、
あなたの体調次第です。**

の知識、そして起業後に直面した数々の課題を乗り越える中で得た実践的のノウハウが加わり、唯一無二の「PM+Xスキル」が形成されました。

現在、多くの仲間である社員と共に、ビジネスを通じて社会に価値を届けながら、信頼と支持を得てさらに成長を続けています。

本講演では、その「Xスキル」の一部を、限られた時間の中で特別に公開します。内容は、起業を志す方はもちろん、組織内での飛躍や経営ポジションを目指す方にも有用な視点や考え方を提供します。プロジェクトマネジメントを土台に、経営的視点を身につけることは、これからのキャリア形成において不可欠です。将来のリーダーや経営者を目指すすべての方に、新たな気づきと行動のきっかけをもたらす講演です。

■ No.4

日本の自然の価値を世界へ

—— その組織づくりと私の挑戦

□ 講師：山田 淳 様

株式会社フィールド&マウンテン 代表取締役

□ 講演：2025年11月22日(土) 15:55～16:55

【講師プロフィール】

2002年、東京大学在学中に世界七大陸最高峰の登頂を最年少記録(23歳9日)で達成。

大学卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーにてコンサルティング業務を経験し、ビジネスの基礎を学んだ後、2010年に現在の会社を創業。世の中にま



だ存在しなかった登山用品宅配レンタルサービス「やまどうぐレンタル屋」を立ち上げ。この革新的な取り組みが注目され、2011年にはTBS「情熱大陸」に出演。その後、レンタル付登山ツアー「ヤマカラ」の企画・運営へと事業を拡大し、登山初心者でも安心して参加できる環境を整備。

「登山人口の増加」と「安全登山の推進」をミッションとして掲げ、このミッションに基づいて事業を展開(現在、富士登山者の20%にあたる年間4万人以上がレンタルサービスを利用し、うち外国人の割合は30%以上。また、屋久島縄文杉登山ツアーでは年間1.5万人(18%程度)が利用し、レンタル付登山ツアー「ヤマカラ」では年間2万人程度が参加)。

より多くの人々が安全に山の魅力を体験できる機会を創出し、日本の将来は自然に関連する観光資源が大きな役割を果たしていくと信じ、持続可能な山岳観光の発展に取り組んでいる。

【講演概要】

登山家として世界七大陸最高峰を最年少で登頂した経験を持つ私が、起業家として事業を立ち上げ、試行錯誤を重ねながら拡大してきた軌跡をお話します。

ヤマカラ

きっかけ 山から日本を見てみよう

登山に興味はあるけど仲間がいない、ひとりでは不安という方々向けのツアー・イベントを実施。
<http://yamakara.com/>

登山は、非合理的な自然と向き合い情熱とチームの力で困難を乗り越えるプロセスです。一方、ビジネスは、合理的な計画と戦略が求められる世界です。

本講演では、この一見対立する「合理」と「非合理」をどのように融合させ、組織づくりに反映させてきたかを、できる限り実体験を通じてお話ししたいと思います。

創業期のプレイヤーから、プレイングマネージャー、そしてマネージャーを育てる立場へと変化する中で、それぞれの立場において違ったことを心がけてきました。

「登山人口の増加」と「安全登山の推進」というミッショ

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告

ンを掲げ、これまでの事業の軌跡を具体的に振り返るとともに、日本の自然の価値を世界に発信していく将来の展望について考察します。

揺らぐ時代を切り拓くためのヒントは、合理的なビジネスの構築と非合理なまでの情熱のはざまにあるかもしれません。この講演が、皆様の何かのヒントになれば幸いです。

■ No.5

ドローンと宇宙に挑む 女性コミュニティの軌跡

—— 逆境を力に変えるマネジメント術

□ 講師：井口 恵 様

株式会社 Kanatta 代表取締役社長

□ 講演：2025年11月22日(土) 17:10～18:10

【講師プロフィール】

2010年横浜国立大学経営学部を卒業、同年にKPMG あずさ監査法人に入所。3年間の監査業務を経て2013年にLVMH モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン・ジャパン株式会社にアナリストとして入社。その後2016年に独立し、株式会社 Kanatta を創業。

ジェンダー平等の実現に貢献することをミッションに、男性が8-9割のドローン、宇宙業界で女性限定コミュニティを運営している。ドローンの魅力を社会に発信する女性コミュニティ「ドローンジョプラス」には、全国で約100名の女性のドローンパイロットが在籍。産業ドローン、空撮、ドローンを活用したプログラミング教育など幅広い場面で活躍している。

2020年には宇宙業界で活躍したい女性のコミュニティ「コスモ女子」を発足し、宇宙業界で働くための基礎知識を学ぶ勉強会や、宇宙の楽しさ、可能性をより多くの人に発信するためのイベントを毎月開催している。2024年にはコスモ女子が女性コミュニティとして日本で初めて人工衛星の打ち上げに成功。同年にForbes JAPAN WOMEN AWARDの個人部門にてパイオニア賞を受賞。



【講演概要】

男性が8-9割のドローン、宇宙業界で女性コミュニティをつくり、それぞれの業界での女性の社会進出、雇用創出を目指している弊社のこれまでの軌跡をお話します。

コスモ女子実績

2024年8月 日本初！宇宙開発未経験の女性チームで人工衛星打ち上げに成功！
2025年9月放送 NHK夜ドラ「いつか、無重力の宙で」取材協力



具体的には、創業4年目に100名いたドローンジョプラスが1ヶ月で10名に激減したり、1年で打ち上げ予定だったコスモ女子の人工衛星のプロジェクトがコロナなどの影響で4年に長期化し、メンバーがどんどん辞めていくなど、数々の苦境を経験してきました。それらをどう乗り越えてきたか、そこから何を学んだかをお話しできればと思います。

また、弊社内のスタッフも約半分が女性の中で、妊娠、出産、育児というライフステージの変化をどう捉え、出産後も女性が働き続ける土壌をどうつくっているかお話しし、普段プロジェクトマネジメントをされている方のヒントになるような時間にできればと思います。

■ No.6

千鳥足ぐらいがちょうどいい、 これからの時代のリーダー像

□ 講師：森 隆信 様

株式会社瀬戸酒造店 代表取締役

□ 講演：2025年11月23日(日) 9:30～10:30

【講師プロフィール】

1971年長崎県生まれ。54才。

1995年に九州工業大学工学部設計生産工学科を卒業。建設コンサルタント会社で橋梁の設計に15年間従事。2006

Best Practice and Competence/PM 事例・知識

■「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告

年に株式会社オリエンタルコンサルタンツに入社し、橋梁設計から新規事業を開拓する部署へ異動。道路や空港などのインフラを民間が運営するPPP・PFI、コンセッション事業を担当。



2017年に地域活性化事業として、神奈川県足柄上郡 開成町の古民家「あしがり郷瀬戸屋敷」と「瀬戸酒造店」を活用した地域活性化事業を企画立案し、責任者として開成町に常駐する。

保有資格：技術士総合技術管理部門、技術士建設部門、コンクリート診断士。

【講演概要】

2018年に38年間の休眠から酒造りを再始動した瀬戸酒造店。再始動を指揮したのは橋梁設計を専門とする土木技術者。酒造りの基本も酒販業界の常識も知らず、酒も飲めない40代のサラリーマンが、社内起業制度を活用し、地域活性化の起爆剤とすべく、休眠していた酒蔵をM&Aした。酒蔵を新しく建替え、杜氏を雇用し、経営の基盤を整え、まさにゼロからのスタートであった。

④ブレイクスルーポイント2 CACACE MIYOさん
・フランスのトップレストランが我が社の日本酒を取り扱ってくれるように。

TVドラマ「グランメゾン東京」で木村拓哉氏が演じた役のモデルであり、映画「グランメゾンパリ」の料理監修を担当したアジア人初のミシュラン三ツ星シェフ、小林圭さんの「RESTAURANT KEI」で我が社の日本酒6銘柄が採用。あしがり郷No.1は日本酒の人気No.1となっている。

200年以上の歴史をもつ名門「LA PYRAMIDE」のシェフ、パトリック・アンリル氏。我が社のフラッグシップモデルである純米大吟醸酒 Satoichiが採用されている。

品質にこだわる経営理念のもと、出来上がった酒は世界のコンクールで多くの賞を受賞した。しかし、国内における認知度はなかなか向上せず、新型コロナウイルスや国内経済の低迷により、計画通りの利益が上げられない。起死回生の施策として、自社の酒を最も評価してくれたフランスで、世界的に有名なシェフがいるレストランへの道場破りの旅を企画した。

「酔狂」ともいえる企画内容と、旅の様子を記録したブランドブックの規格外のクオリティは、企画段階では誰も予想しなかった成果につながった。

予測通りにいかない不確実な世界において、成果を上げる

ために必要なこととは？小さな酒蔵の細腕繁盛記を通して、これからの時代のリーダーシップについて語る。

■No.7

プロジェクト成功の
“最後のピース”

—— 変革を導く「X 人材」の本質に迫る

□講師：榊 亮 様

ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社 代表取締役社長

□講演：2025年11月23日(日) 10:45～11:45

【講師プロフィール】

大学卒業後、大和ハウス工業にて一級建築士として設計業務に従事しながら、業務改善プロジェクトに携わる。現場から変革を起こす面白さと難しさを体感し、コンサルティングの道へ。ケンブリッジ入社後は「現場を変えられるコンサルタント」として、金融・通信・運送など多様な業界で業務改革、新サービス立ち上げ、人材育成プロジェクトを推進。ファシリテーションを活かした納得感のあるプロジェクト推進を得意とし、著書に『世界で一番やさしい会議の教科書』、『業務改革の教科書』など多数。



ケンブリッジは「ファシリテーション型変革コンサルティング」を掲げ、現場に寄り添いながら変革をやり切る支援を行っている。

【講演概要】

DXが進まない本当の理由をご存じですか？

管理手法も整い、IT教育も進んでいるのに、変革が起きない——その背景には「D」の不足ではなく、「X(トランスフォーメーション)人材」の不足があります。

本セミナーでは、PMBOKの変遷や経産省の政策も踏まえながら、今求められている「変革をリードする人材=X人材」の役割とスキルセットを明らかにします。構想策定から実行までの段取りを通じてX人材が担う具体的なタスクを紹介し、AIには代替できない「人間臭さ」の重要性に迫ります。

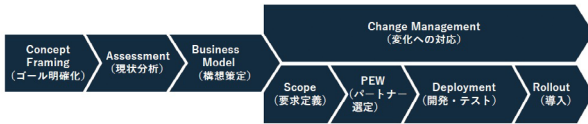
さらに、育成の壁を乗り越えるための実践的なヒントや、

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告

正攻法のプロセス（段取り）がある

- これを推進できる人材が「X人材」ではないだろうか



超上流工程

- ・ゴールとコンセプトを作り
- ・現状と障害を明らかにして
- ・施策を具体化し
- ・実現後の嬉しさを示し
- ・ストーリー立てで合意を取り付ける

実行工程

- ・業務要求をシステム要求に変換し
- ・ITと業務を繋いで双方の目線を合わせる
- ・都度発生する課題を解消し
- ・変化への抵抗をコントロールして
- ・変化を定着させる

企業での育成事例もご紹介。プロジェクト成功の最後のピースを埋める一步を、ぜひこのセミナーで踏み出してください。

■No.8

大手企業と共創し、ビジョンを実現する

—— スタートアップ企業Unitoが実践するホスト型リーダーシップとは

□ 講師：近藤 佑太郎 様

株式会社Unito 代表取締役

□ 講演：2025年11月23日(日) 12:45～13:45

【講師プロフィール】

1994年、東京生まれ。幼少期の3年半、父の仕事の都合上、東ヨーロッパのルーマニアで育つ。

大学1年次、国際交流を軸に活動する学生団体 NEIGHBOR を設立。在学中にクロアチア最高峰のビジネススクール ZSEM に留学し、観光学を学ぶ。帰国後、複数の旅行系スタートアップで修行。

2017年株式会社Unitoを創業。2020年東京を中心に、帰らない日は家賃がかからない住まい「unito」を展開。

2022年に東急と共同開発、2023年に三井不動産や文部科学省との協業を発表。不動産業界のキーパーソンを巻き込み、新しい暮らしのスタンダードを創造する。

「アジア太平洋地域における急成長企業ランキング2025」不動産部門4位、ホスピタリティ・旅行部門5位。2025年版「働きがい認定企業」選出、「Technology Fast 50 2024 Japan」



10位受賞。一般社団法人シェアリングエコノミー協会幹事。

【講演概要】

スタートアップは、既存の枠にとらわれず新たな技術や発想で社会課題に挑戦し、変化に素早く対応し、事業を形にしていける存在です。



本セッションでは、大手企業とともに共通のビジョン実現を推進するために、スタートアップ企業Unitoが実践する「ホスト型リーダーシップ」に焦点を当てます。

立場にとらわれず共創の場を設計し、どのようにシナジーを引き出しているのか。そして、自社経営においてもホストとして人や組織をどう導いているのか。スタートアップだからこそ担える、未来志向のリーダーシップ像を探ります。

■No.9

AIと他力

—— 予測不能な世界を生き抜く仏教的思考法

□ 講師：武田 正文 様

浄土真宗 本願寺派高善寺（島根県邑南町）住職

□ 講演：2025年11月23日(日) 12:45～13:45

【講師プロフィール】

浄土真宗本願寺派僧侶・臨床心理士、公認心理師、広島大学客員講師。

島根県邑南町の高善寺住職として活動する傍ら、YouTube

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告

「仏心チャンネル」とVoicy「仏心ラジオ」を中心に仏教と心理学をわかりやすく発信。心理臨床の現場では、学校、企業等でのカウンセリングや研修に携わり、マインドフルネスやセルフコンパッション、AI時代の心の在り方について講演を行っている。

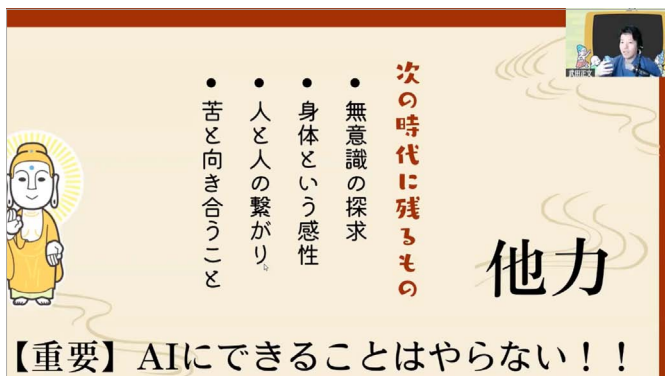
趣味はAIと茶道（裏千家）。

著書として「10人のお坊さんに聴いてみた（講談社）」、「しなやかな自分のつくり方（金風舎）」



【講演概要】

「他力本願」と聞くと、他人任せで努力をしないというイメージを抱かれがちですが、本来の仏教における「他力」とは、大いなる命の流れに身を委ねながら、いかに主体的に生きるかという教えです。AIが進化する現代、私たちはあらゆる判断や思考をAIに委ねるばかりではなく、その力を借りつつ、自らの生き方を主体的に見つめ直すことが求められています。仏教は「仏にすべてを任せて何もしない教え」ではなく、むしろ「自分とは何か」、「どう生きるか」を深く問う教えです。AIによって仕事のあり方が変わり、余暇の時間が増えるなかで、私たちはこれまで避けてきた問いと向き合う時代を迎えています。



本講演では、仏教的思考法を通して、AIと共に豊かに生きるヒントをお伝えします。

- AIにすべてを任せる時代に、私たちは何を見失うのか？
- 「他力本願」は“あきらめ”ではない —— 信頼と委ねの智慧
- 仏教に学ぶ、変化と不確実性を受け入れるマインドセット
- 自動化の先に現れる、“生きる意味”という問い
- AIと共に、主体的に、そして豊かに生きるためのヒント。

■No.10-1

PM Award2025

Small and Medium部門での最優秀賞

en.to（えんと）:

縁を育み地域と人をつなぐ、滞在型交流拠点プロジェクト

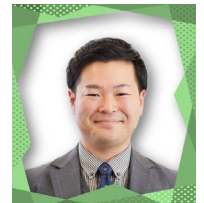
□ 講師：横山 暁一 様

合同会社 en.to 代表社員

□ 講演：2025年11月23日(日) 15:15～15:45

【講師プロフィール】

1991年生まれ、長野県塩尻市在住。名古屋大学卒業後、インテリジェンス（現：パーソルキャリア）に入社。2019年からはパーソルキャリアと兼業する形で長野県塩尻市の地域おこし協力隊として、塩尻商工会議所の地域人材コーディネーターに着任。2020年に「地域の人事部」をテーマとしたNPO法人MEGURUを設立。



その後、塩尻市の中心市街地で最も大きな空き物件となっていた旧ギフトショップ「ハリカ塩尻店」の再生に向けて、自らが地域住民や関係人口とのハブとなって協働する人材と資金を募り、合同会社en.toを設立。シェアハウス・ゲストハウス・コミュニティスペースの機能を持った「滞在型交流拠点en.to」をメンバーと共に開業。

その他、塩尻商工会議所の地域人材コーディネーターや信州大学 キャリア教育・サポートセンターのアドバイザーも務める。

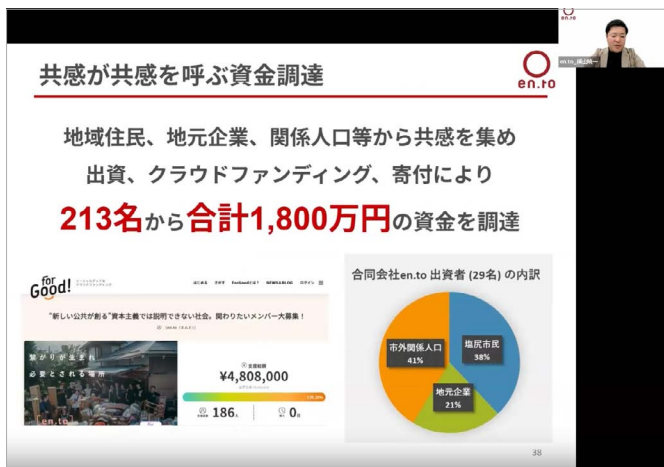
【講演概要】

長野県塩尻市の空き家をリノベーションし、地域と人をつなぐ滞在型交流拠点「en.to（えんと）」を創出。シェアハウス・ゲストハウス・地域開放コミュニティスペースの三機能を一体化、多様な人々が暮らしの延長として交わる関係性の場を実現。

地域住民、行政、企業、NPO、学生など幅広い主体と協働し、関係人口創出と地域社会の新たな繋がりを生み出す。長野県「広域的地域活性化基盤整備計画（二地域居住）」における「特定居住拠点施設」にも認定。空き家活用にとどまらず、地域社会の再構築に挑戦する実践的プロジェクト。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2025」開催結果報告



■ No.10-2

PM Award2025
Large 部門での最優秀賞

en.to (えんと) :

東京医科歯科大学と
東京工業大学の統合による
「東京科学大学」の設立

□ 講師：大竹 尚登 様

国立大学法人東京科学大学 理事長

□ 講演：2025年11月23日(日) 15:45 ~ 16:15

【講師プロフィール】

1989年7月に東京工業大学大学院 理工学研究科機械工学専攻博士 後期課程中途退学後、東京工業大学、University of Minnesota、名古屋大学において教育研究に携わる。東京工業大学の学長補佐、副学長として大学運営にも参画。東京工業大学科学技術創成研究院長として東



京医科歯科大学と東京工業大学の統合に向けた検討の初期段階から関わり、2024年10月に国立大学法人東京科学大学の初代理事長として文部科学大臣から任命される。

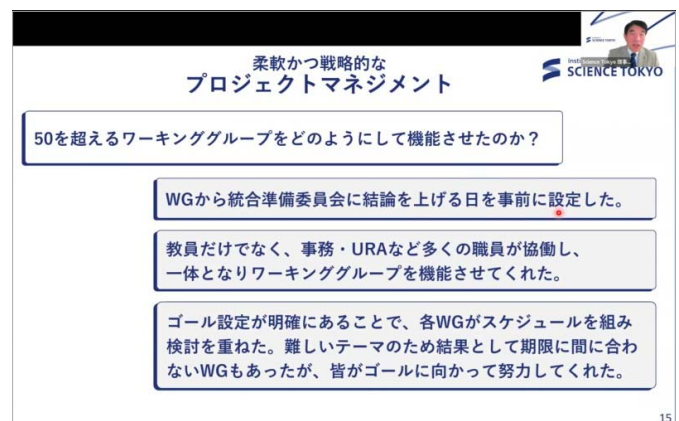
機械材料学、機能性薄膜を専門とし、企業との共同研究を多数実施。"Carbon Films"の国際標準化にプロジェクトリーダーとして取組みISO登録を実現。「イノベーション・ジャパン2005UBSスペシャルアワード（最優秀賞）」、「令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）」をはじめ多数の研究賞を受賞。

博士（工学）東京工業大学

【講演概要】

歴史と伝統を有する国立大学である東京医科歯科大学と東京工業大学は2024年10月に統合し、「東京科学大学」が誕生しました。

本講演では、2大学の統合の背景と課題、統合までの軌跡や直面した障壁、柔軟かつ戦略的なプロジェクトマネジメント（トップダウンとボトムアップの融合、文化統合への挑戦、社会との共創）、統合が生み出した価値（教育・人材育成への貢献、医工融合によるイノベーション創出）、善き未来に向けた統合プロジェクトからの教訓などについて、プレゼンテーションします。



関西ブランチ創立15周年記念 イベント ～ PMわくわくフェス～ 結果報告

関西ブランチ 運営委員会 代表 伊達 渡

- 開催日時：10月4日(金) 10:00～17:00
- 開催場所：マイドーム大阪 8F 第1・2会議室
- テーマ：PM3団体の垣根を越えて関西からPMの未来を動かそう！

セミナー内容：

〈ワークショップ〉

関西PMコミュニティの未来を、仲間と一緒に描こう！

関西ブランチ PM実践研究会 大西 徹 氏

〈ネットワーキング〉

ネットワーキングビンゴ大会

関西ブランチ 運営委員会 伊達 渡 氏

〈基調講演〉

複雑なプロジェクトを成功に導く道筋

～ 万博・大規模システム・新規事業の挑戦から共に学ぶ～

大阪大学フォーサイト・アカデミー エバンジェリスト

竹林 一 氏

〈3団体パネルディスカッション〉

関西におけるPMへ期待すること

[パネリスト]

竹林 一 氏（大阪大学フォーサイト・アカデミー エバンジェリスト）

加藤 亨 氏（日本プロジェクトマネジメント協会 理事長）

羽山 誉敏 氏（プロジェクトマネジメント学会 会長）

端山 毅 氏（PMI日本支部 会長）

[ファシリテーター]

浦田 有佳里 氏（PMI日本支部 理事）

〈交流会〉

1. PMI支部での地域活動

PMI日本支部の活動は首都圏だけではなく、いくつかの地

域においても積極的な活動を展開しています。それらの活動は地域サービス委員会で、支部全体の活動との連携や地域間の整合性・調整を図りながら、それぞれの地域が主体的に活動できるような枠組みのもとで進められています。現在は、会員のみが参加できるブランチに加えて、非会員の方々にも参加いただけるコミュニティが4地域で活動しています。

このような活動の中で関西ブランチは、2009年12月に国内初のブランチとして発足し、これまで1つの運営委員会と5つの研究会を抱える大きな組織へと成長しました。

＜関西ブランチ運営委員会＞

＜PM実践研究会＞

＜IT上流研究会＞

＜PM創生研究会＞

＜定量的PM事例研究会＞

＜医療PM研究会＞

運営委員会および各研究会は、分野や所属の枠を超えて緊密に連携し、相互に学び合いながら、プロジェクトマネジメントの発展・探求に一体となって取り組んできました。

2. 関西ブランチ創立15周年イベントの企画とその思い

2024年12月、関西ブランチは創立15周年という節目を迎えました。発足以来、部会活動や定例セミナー、勉強会などを通じて、関西のプロジェクトマネジャーが学び合う場づくりを続けてきました。一方で現場に目を向けると、「管理職やPMは大変そう」「PMを目指したい若手が少ない」といった声も聞こえてきます。プロジェクトの重要性が高まる一方で、PMという役割が“憧れのポジション”として語られにくくなっているのではないかと——そんな危機感がありました。

こうした状況に対し、運営委員会では「PMのしんどさだけでなく、楽しさややりがいを改めて共有できる場をつくれないか」「他のPM団体とも一緒に、関西から未来志向のメッセージを出したい」という問題意識を共有しました。そこか

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■関西ランチ創立15周年記念 イベント ～PMわくわくフェス～ 結果報告

ら生まれたコンセプトが、PM3団体が一堂に会し「未来のわくわくプロマネ」を語り合う丸一日のイベント——『PMわくわくフェス』です。



運営委員会メンバー：イベント後の様子

3. 企画から準備へ

企画内容が概ね決まってきた段階で、「わくわくする」と「他団体と一緒に語り合おう」をテーマに、どのようなプログラム構成にするかを議論しました。そこで「フェス」の名にふさわしく、多種多様なイベントとなるように考えたアイデアが、「ワークショップ」「ネットワーキング」「講演」「パネルディスカッション」「交流会」の5つです。

ワークショップでは、関西ランチで長年続けているPM実践研究会にお願いしました。ネットワーキングでは「ビンゴ」と掛け合わせ、初対面同士でも自然に会話が生まれるような仕掛けを考案しました。

基調講演は、「関西」と「わくわく」にふさわしく、PM創生研究会にゲスト参加いただいたこともある大阪大学フォーサイト・アカデミー エバンジェリストの竹林 一氏にお声がけし、快くご承諾いただきました。

パネルディスカッションでは、プロジェクトマネジメントの団体として著名な一般社団法人プロジェクトマネジメント学会様、特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会様にお声がけし、PMI日本支部会長とともに3団体の代表者が一堂に会する場を設けました。最後に、「リアル」で顔を合わせて語り合うことを重視し、交流会を開催することとしました。

4. 関西ランチ創立15周年イベント PMわくわくフェスの当日の様子と概要

セミナー当日の申込者総数は、午前の部55名、午後の部71名、交流会46名でした。当日は、午前・午後の合間に軽食を囲みながらの交流時間も設け、終日を通して参加者同士の対話とワクワクが途切れない一日となりました。それでは、当日の流れに沿って振り返ってきたいと思います。

(1) ワークショップ：「PMコミュニティのこれから」を描く

午前の部は、PM実践研究会の大西 徹氏をファシリテーターとしてお迎えし、「PMコミュニティのこれから」をテーマにしたワークショップからスタートしました。テーブルごとに、次の3つの問いについて対話を行いました。



- PMコミュニティの「モヤモヤ」を共有する
- PMコミュニティで一緒にできたら「ワクワクすること」
- 理想的な未来のPMコミュニティとは何か

ワークショップの進め方として、別テーブルの対話を見学する「チェンジ&ウォッチ」の時間も設け、他チームの視点を取り入れながら、自分たちの前提や思い込みに気づく仕掛けを取り入れました。これにより、「自分の職場」「自組織」の話題に閉じることなく、関西という地域全体でPMコミュニティをどう育てていくかという、より俯瞰的な視座を得るきっかけになりました。

(2) ネットワーキングビンゴ大会：遊び心で広がるつながり

ワークショップの後半から昼休みにかけて実施したのが、「ネットワーキングビンゴ大会」です。参加者は名札代わりのビンゴカードを手に、周囲の方と自己紹介を交わしながら、カードの9つのマスに相手の名前を書き込んでいきます。その後、抽選で参加者の名前を読み上げ、縦・横・斜めのいずれかがそろえばビンゴ成立。達成者にはPMIのステーションナリーグッズをプレゼントしました。



ゲーム感覚で楽しみながら、所属や世代を超えた交流が自然と促され、「名刺がなくなるほどたくさんの方とネットワー

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■関西ブランチ創立15周年記念 イベント ～PMわくわくフェス～ 結果報告

キングができた」「別のPM団体の方と気軽に話せた」といった声が多く聞かれました。フェス全体の空気を一気に「わくわくモード」に切り替える役割を果たしたプログラムとなりました。

(3) 基調講演：複雑なプロジェクトを成功に導く道筋

午後の最初のプログラムは、竹林 一 氏による基調講演「複雑なプロジェクトを成功に導く道筋 ～万博・大規模システム・新規事業の挑戦から共に学ぶ～」でした。



竹林氏は、これまで約700件におよぶプロジェクトに携わり、そのうち650件はシステム開発、残りは新規事業やイノベーションの仕組みづくりに関するプロジェクトという豊富な経験をお持ちです。

講演ではまず、万博や五輪などのメガプロジェクトがなぜ当初の想定から大きく乖離していくのかを、海外の研究や大阪・関西万博の事例を通じて解説いただきました。そのうえで、プロジェクトを「マイナスをゼロに戻す“守りのPM”」と「ゼロからプラスを生み出す“攻めのPM”」という2つの側面から捉え、どちらにも共通するのは「学び続ける姿勢」と「ステークホルダーとの対話」であることが強調されました。

さらに、「1人から始めるイノベーション」というメッセージのもと、現場レベルの小さな工夫や問いかけが、やがて組織全体の変革につながっていくプロセスについて、具体的なエピソードとともに紹介いただきました。大規模システムや新規事業といった一見スケールの大きなテーマも、「一人のPMの主体的な一歩」から始まることを、改めて実感させられる講演でした。

(4) 3団体パネルディスカッション：QCDから「価値」へ

続く3団体パネルディスカッションでは、「関西におけるPMへ期待すること」をテーマに、PMI日本支部、PMAJ、PM学会の3団体の代表と竹林氏が、それぞれの立場から「これからのPM像」について意見を交わしました。



ディスカッションの冒頭では、端山氏からPMIが2024年に提示した「プロジェクト成功の新定義」として、Value > Effort + Expense、すなわち「労力や費用に見合う価値が提供されたと関係者が了解すること」が紹介されました。成功をQCDの達成だけでは語れない時代に入っていることが、あらためて確認されました。

議論の中では、PMが「与えられた要件を守る人」から「創出すべき価値を共にデザインし、その実現プロセスをリードする人」へと役割を広げていく必要があること、変化の大きい環境の中で、利害関係者と継続的に対話しながら価値の認識をアップデートし、計画を柔軟に見直していく姿勢が求められること、そのためには、個々のPMのスキルだけでなく、3団体を含むコミュニティ全体が学び合う場を持ち続けることが重要であることなどが語られました。フェスのタイトルどおり、未来のPM像を“わくわくしながら”思い描く時間になったと言えます。

(5) 交流会：リアルな場で深まる縁

プログラム終了後には、会場近くで交流会を開催しました。各団体の会長・理事をはじめ、ワークショップやビンゴで知り合った参加者同士が、飲食をともにしながら、講演やパネルで印象に残ったキーワードについて語り合う姿があちこちで見られました。プロジェクトの現場の悩みから将来のキャリアの話まで、立場を超えた率直な対話が交わされ、フェスの締めくくりにあふさわしい、温かくも活気ある時間となりました。

**5. 記念セミナー開催を振り返って**

開催終了後、たくさんの方から、「楽しかった!」「ためになった!」という声を多数いただき、感無量になりました。竹林氏の起承転結人材モデルや、3団体の代表がパネルディスカッションでそれぞれのプロジェクトマネジメントの思いや価値を語っていただき、非常に多くの学びと気づきを得ることができました。また、ワークショップやネットワーキングを通じて、関西のPM同士が世代や所属を超えてつながり

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■関西ブランチ創立15周年記念 イベント ～PMわくわくフェス～ 結果報告

合う様子を目の当たりにし、「PMだからこそ味わえるおもしろさ」を共有できたと感じています。



午前の部 ワークショップ後のハイタッチ

今後は、関西ブランチメンバーだけでなく、今回ご参加いただいた方々、そしてこれからプロジェクトマネジメントに関わっていきたいと考えている方々とともに、活動を一層広げていきたいと思っています。引き続き、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

プロジェクトふりかえりワークショップ (京都光華女子大学) 2025 報告

PMI日本支部 関西ブランチ PM実践研究会 山本 智子・後藤 裕香里



PMI日本支部 関西ブランチ「あかね実践工房」

ふりかえりワークショップ2025 at 京都光華女子大学（プロジェクト入門）

テーマ「大学祭への出店プロジェクトのふりかえり・改善検討」

PM実践研究会「あかね実践工房」では、「ジュニアからシニアまで」プロジェクトマネジメントを活用する人を広げることを狙いに、学生向けのプロジェクトマネジメント教育プログラムの作成・実践を行っています。今回、プロジェクト入門を学ぶ学生向けに「プロジェクトふりかえりワークショップ」を行いましたのでご報告します。

1. 概要

□実施日時：2025年11月18日(火) 12:50～16:00

□場所・対象：

京都光華女子大学 プロジェクト入門を学ぶ大学1年次
37名出席

大学祭での出店という「模擬店プロジェクト」を題材として、プロジェクトマネジメント（PM）を2025年4月より1年間かけて学んでいる

□内容：

大学祭出店後のふりかえり・改善検討の授業2コマを、あかね実践工房がワークショップ（WS）形式で実施。KPT法を使ったプロジェクトのふりかえりを実施。

□学生たちの反応：

WS実施前は研究会メンバと学生の平均年齢差40over？にドキドキだったが、フレンドリーな学生達のおかげで、あまり距離感を感じることなく実施できた。授業後の学生からの感想は、全員が「満足・非常に満足」と回答いただき、PM実践の裾野を広げることができたと思う。

2. ワークショップ開催のための準備

今回のWSは、初回開催で、かつPM初心者であろう大学1年次向けということで、どのような内容にするかの調査・

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■プロジェクトふりかえりワークショップ（京都光華女子大学）2025 報告

検討に時間を要した。

- 大学側との事前打ち合わせ 7月よりオンライン3回、対面1回
PM実践研究会の取り組み内容を紹介し、WSを提案。授業内容を確認して、WS内容すり合わせ
- 大学での授業風景見学
実際の授業を2名で見学させていただき写真も撮影。学生のPM認知度を確認
- 大学祭実施時の模擬店見学
2名が大学祭に訪問し、写真も撮影。他の研究会メンバに共有
- PM実践研究会内でのWS内容検討 8月よりオンライン4回×1時間強
シラバスを確認の上、学生に得てもらいたい観点、PM実践研究会が主催する意義の検討、PM初心者に向けてのレベル感の調整等を行い、WS資料作成・レビュー。
WSのブラッシュアップを実施

3. KPT法を活用したふりかえりワークショップ開催

学生たちがより具体的にふりかえり・改善検討ができるよう、講師（研究会メンバ6名）によるサポートを行いながら、模擬店プロジェクト（8チーム）に分かれて個人検討やチーム検討を行い、ワークの内容を模造紙1枚にまとめて発表した。

今回、1年次の学生でPM初心者と想定した。そのため、円滑にプロジェクトをふりかえり、改善点を検討できるように、ワークを3回に分割した。

また、最初のワークではプロジェクト実行中にあった感情（嬉しかった・つらかったなど）と出来事をキーとしたふりかえりを入れることで、PM初心者にも取り組みやすいワークを目指した。

- ① **Work1**：計画立案～出店時の出来事を、うれしかった・悲しかった・つらかったなどの感情を思い出しながらKPT法で振り返る
Keep（良かったこと、続けたいこと）、Problem（課題、問題点）を中心に、個人検討、チーム検討でメンバの感情をキーに当時を思い出していった。具体的な事例が多く出る効果があった。
- ② **Work2**：その出来事がPMの観点からどう位置づけられるかをKPT法で深掘る
プロジェクト計画内容と実際の経験を比較しながら、Keep、Problem、一部Tryを再度振り返る個人検討、チー

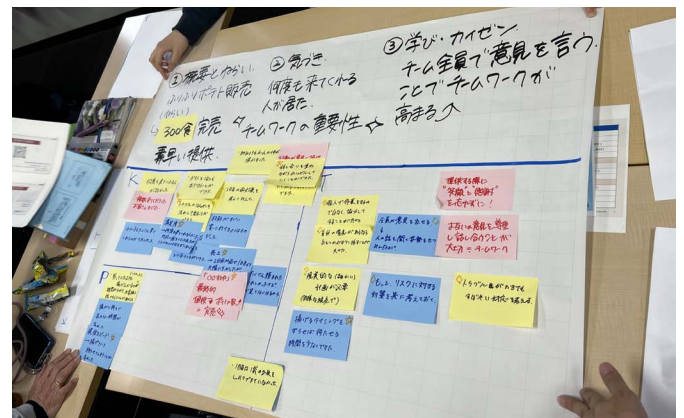
ム検討を行い、PM観点で深堀りをしていった。

PM経験豊富な講師のサポートで、新しい観点到に気づいていたように思う。

- ③ **Work3**：Work1・2から出てきた内容から、カイゼンを検討する
今までのワークから、Try（次回に向けて）を検討する個人検討、チーム検討を行い、カイゼン策を検討した。各チーム多くのTry項目が出て、複数人によるふりかえりの相乗効果に気づいた学生もいた。
- ④ **発表準備**：発表に向けて、内容をまとめる
模造紙の上部に「プロジェクト概要と狙い」を記載するとともに、KPT法で得た「気づき」、「学び・カイゼン提案」をまとめて、発表の準備を行った。
- ⑤ **発表**：1チーム5分で発表と質疑応答を実施
「プロジェクトの概要と狙い」「気づき」「学び・カイゼン提案」を中心に発表。
学生からの質疑（通常あまり無いとのこと）もあって、活気ある発表となった。



橋本代表による説明風景



発表用模造紙（KPT法）

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■プロジェクトふりかえりワークショップ（京都光華女子大学）2025 報告

4. WS後の学生の感想

ふりかえりWSの実施については全員が「満足・とても満足」、研究会メンバのアドバイスについても「よかった・とてもよかった」と回答いただいた。

プロジェクト終了後のふりかえりが大事であることに気づいた学生が多く、他チームの発表から新たな学びを得た学生もいた。また、チームワークの大切さやコミュニケーションの重要性について、今回のWSを通じて再度認識したとの感想もあった。

全体を通して、満足度が高い評価をいただいております、初めてプロジェクトマネジメントに接する学生向けに、プロジェクトマネジメント手法やふりかえりの重要性について、気づいていただけたと考えます。

今後、今回のプロジェクトマネジメント初心者層へのWS開催経験や、そこでいただいた貴重なご意見を踏まえ、関西ブランチPM実践研究会のさらなる活発な活動に向けて取り組んでいきたいと思っております。



チーム検討風景



集合写真

委員会・部会活動内容紹介

■ PMBOK® セミナープログラムのご紹介

PMI 日本支部 PMBOK® セミナープログラム 代表 藤田 廣昭

PMBOK® セミナープログラムはPMBOK® ガイドを始めとしたPMIの標準類を解説するセミナーを実施することをミッションとしています。「PMI日本支部主催」という冠がついたセミナーを実施しているため、「敷居が高い部会」と感じられる方もいらっしゃるかもしれません。もちろん、有償セミナーとしての品質を確保するという意識と責任を持って活動していますが、ボランティア活動ということもあり、それぞれの事情に合わせた形で活動しています。過去に講師経験がなかったという方も初めて講師を担当したという方もいらっしゃいます。実は私もセミナーの講師を担当したのはこれが初めてでした。

図1 最近の活動

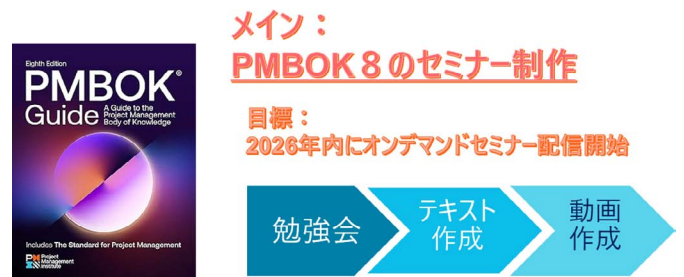
活動内容	2022年	2023年	2024年	2025年
定例会	毎月第2金曜日20時より開催			
PMBOKガイド第7版セミナー (オンデマンド配信)	セミナー制作 2022年11月より提供開始			
PMBOKガイド第7版セミナー (会場開催)	開催準備	5月 開催 8月 開催 11月 開催	6月 開催 11月 開催	6月 開催 11月 開催

最近の活動内容（過去4年間）を図1に示しました。2021年10月にPMBOK® ガイド第7版の日本語版が発行されており、以降はPMBOK® ガイド第7版のセミナーを実施することが主な活動となっています。2022年11月にはオンデマンドのセミナーを配信開始しました。累計で500名を超える方に受講いただきました。2023年からは会場開催のセミナーを実施しており、合計で7回開催しています。

こういったセミナーの企画や制作についても部会メンバーで行っています。セミナーのテキストを作成するのはもちろんのこと、オンデマンドで配信する動画も自分たちで編集しています。会場開催のセミナーの実施にあたって、どのような形で行うのか、どのようなタイムスケジュールで進めるのか、

といったことも部会メンバーで決めています。どうすれば受講者の方に満足してもらえるかを考え、セミナーを企画していくプロセスそのものも、この部会の魅力だと思っています。ちなみに、PMBOK® ガイド第7版の会場開催のセミナーは、講義＋グループワークといった形で実施しています。一方的に講義するだけではなく、受講者が自らの経験を踏まえながらグループワークを行うことで、表面的な理解ではなくより腹落ちしてもらえるようにしています。

図2 来年度の活動予定



日本語版は、2026年1～2月に発刊予定。

2026年度の活動予定については、PMBOK® ガイド第8版の日本語版が2026年の早々にリリースされる予定となっており、PMBOK® ガイド第8版の解説セミナーの制作を行います。詳細な進め方は今後検討していきませんが、2026年度内にオンデマンド形式のセミナーを配信開始することを目指しています。とは言え、いきなりセミナーの制作を始めるというわけではなく、メンバーの理解を深めるためにまずは勉強会の開催から始めていきます。当たり前のことですが、PMBOK® ガイド第8版を理解しないまま、セミナーの制作はできません。私は、2021年の末にPMBOK® セミナープログラムに入会して、PMBOK® ガイド第7版の勉強会から参加させていただきましたが、この勉強会で色々なメンバーの意見を聞くことで、抽象的と言われる第7版の理解を深められた

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

と感じています。

2026年度の活動においてセミナー制作以外にもチャレンジしていきたいことがあります。それは、部会メンバーのエンゲージメントの向上です。エンゲージメントの低下は、運営側の不手際によるところも大きく、代表として大きく反省すべき点と認識しています。また、特にここ1~2年はセミナー実施という成果を求めるあまり、ボランティア活動の楽しさよりも、納期や品質に追われる「業務」のような側面が強くなってしまい、少なからず「やらされ感」のようなものが生じてしまったと振り返っています。2026年度はPMBOK®ガイド第8版のセミナー制作という大きな目標があり、チーム一丸となって向かっていけるような信頼関係の構築が不可欠と考えています。部会メンバー間のネットワーキングの場を設けるなど、部会メンバーが本音で語り合い信頼関係を築ける機会を作れればと考えています。

図3 募集するメンバー

経験不問
初心者歓迎

- ◆ セミナーの講師をやってみたい方
 - PMBOK®セミナープログラムで開催する各種セミナーの講師・ファシリテーター
- ◆ セミナーの企画・運営をやってみたい方
- ◆ 部会運営に関わってみたい方
- ◆ 各種コンテンツの作成に関わってみたい方
 - オンデマンドセミナーのテキスト作成
 - オンデマンドセミナーの動画編集
 - ホームページの更新



PMBOK®セミナープログラムでは、現在部会メンバーを募集しています。来年度のPMBOK®ガイド第8版の解説セミナーの制作に関わっていただける方はもちろんのこと、部会運営に関わって部会の活性化などに協力いただける方も歓迎します。皆さまのご都合に合わせて、「テキスト作成」、「動画編集」といった一部の活動のみ参加いただく形でも大丈夫です。PMBOK®セミナープログラムに限らず、PMI日本支部の活動に関わることで、普段のお仕事では経験できないようなことができ、スキルの幅が広がっていきます。最初は見学でも構いません。お気軽にご連絡いただけると嬉しいです。

■【セカンドライフを豊かに!】シニアコミュニティのご紹介 ～ 迷いや不安を希望に変える「語り」と「実践」の場 ～

PMI日本支部 シニアコミュニティ 代表 大久保剛

1. コミュニティ立ち上げの想い：なぜ今、シニアのためのコミュニティが必要か

シニアコミュニティは、定年などで現役を退いた世代、あるいはシニアライフに関心がある方を対象としたコミュニティです。このコミュニティ立ち上げのきっかけは、代表の大久保の「在職中の挫折→資格取得→越境学習→早期退職→セカンドキャリアのスタート」といった経験に基づいています。自身が直面した「迷い・不安」、「恐怖・孤独感」は、多くのシニア世代に共通する感情ではないかという問題意識から発足しました。

さらに「最近の日本はおかしいぞ、我々でなんとかせねば…」

という想いもあり、当コミュニティの最終的な野望は「シニアが主体的に生きるための社会とコミュニティを醸成し、シニアによる日本社会の課題解決」に結びつけることです。この目標に向けて、私たちは「語り」と「実践」の場である「サロン」を運営しています。

2. 活動の柱：「シニアが豊かに、シニアで豊かに!」

シニアコミュニティの活動は、セカンドライフの充実と社会への貢献を目指し、以下の3つのテーマを柱とするサロンを中心に展開されています。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

図1 シニアコミュニティの体制と3つのサロン

代表	大久保 剛	サロン1 ライフデザイン		リーダー	鈴木 隆明
副代表	伊熊 昭等	サロン2 リスクリング		サブリーダー	伊熊 昭等
	竹田 憲一			リーダー	北川 活宏
PMO	高橋 正憲	サロン3 社会貢献実践		サブリーダー	猪口 政一
	鬼塚 祐代			リーダー	大島 康宏
	野尻 一紀			サブリーダー	高橋 正憲
サポートメンバー	藤井 新吾				
	井関 泰文				
	稲葉 涼太				

この3つのサロンと、全体での交流の場を組み合わせること
とで、「シニアが豊かに、シニアで豊かに！」すなわち、シ
ニア自身の豊かさ、シニアの主体的なアクションによる社
会の豊かさを目指しています。

3. 活動内容の詳細：楽しさと実践の場

活動は、主にオンラインの「お話し会」（サロン）を中心に
構成されており、意欲的な方は、ご自身でプロジェクトを立
ち上げたり、プロジェクトに参加したりしていただくことも
可能です。2025年度は、(1) 子供へのPM教育「ふしぎラ
ボラトリー」、(2) 多世代交流パターン・ランゲージ作成
の2つのプロジェクトが立ち上がりました。

(1) 全体サロン（交流の機会）

毎月第4土曜日の20:00から21:30にオンライン開催し
ています。これは、コミュニティ全体の情報共有やメンバー
間のカジュアルな交流を目的としています。

(2) サロン1：ライフデザイン（いきがい発見・充実）

このサロンは、自身のセカンドキャリアや生き方について
深く考える場です。

- ・活動実績：メンバー同士でキャリア紹介を実施し、互いの
経験から学びを得ています。
- ・活動頻度：3ヶ月に1回のペースで不定期に開催されてい
ます。
- ・楽しさ・有用性：「あの人がこんな挫折をしたんだ！」といっ
たメンバーの意外な一面を垣間見ることができ、メンバー
同士がより親密になり、かつ自身が今後歩むべきキャリア
の参考にすることができました。

(3) サロン2：リスクリング（スキル探検・獲得）

シニアになっても学びを止めず、社会で活躍し続けるため

のスキル獲得を支援します。

- ・活動実績：今年は多様なテーマが扱われました。例えば、「プ
レゼンテーションスキル向上の極意」や「シンプルでわか
りやすいプレゼン資料のポイント」といった専門的なスキ
ル紹介のほか、「50代からの起業」や「終活／エンディン
グノート」など、セカンドキャリアに関連する広範なテー
マで発表やワークショップを行いました。
- ・活動頻度：毎月1回、第二火曜日を中心に実施しています。
- ・楽しさ・有用性：メンバー同士が得意なスキルを教え合い、
互いの知識や経験値を高められる点が魅力です。リスクリ
ングのための「芽」＝伸び代を探索する活動とも言えます。

(4) サロン3：社会貢献実践（豊かさへの挑戦）

ここでは、社会に貢献する活動への「入り口」を探り、具
体的な実践に挑戦します。

- ・活動実績：各メンバーの社会貢献活動の状況報告や、外部
講師を招いた講演（例：松戸市の地域活躍塾の事例紹介）
などを実施しました。
- サロン活動から派生し、有志のメンバーが積極的に参画し
ている具体的なプロジェクト活動は、コミュニティの実践
的な有用性を高めています。

①子どもたちへの体験型PM普及活動（タワーゲーム）：

有志メンバーは、2025年9月22日に学芸大学小金井キャン
パスで開催された「青少年のための科学の祭典」へブー
ス出展を行いました。この出展では、「タワーゲーム」
を活用し、プロジェクト的な思考やチームでの協力の体
験を通じて普及・教育する活動に取り組みました。

②多世代交流を促進するパターン・ランゲージ作成への参

画：有志メンバーが他団体との連携プロジェクトに参画
し、多世代交流を促進させるための「パターン・ランゲー
ジ」ワークショップ（全9回）に取り組みました。これは、
多世代間におけるコミュニケーションや課題解決のヒントを、シニア世代の経験を活かして体系化し、社会貢献
につながる実践的なプロジェクトとして展開されていま
す。

- ・活動頻度：3ヶ月に1回のペースで不定期に開催されてい
ます。
- ・楽しさ・有用性：社会貢献活動への参加の仕方、PMスキ
ルの業務外適用などについて、経験者の話を聞くことがで
き、外部団体での活動の架け橋となっています。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

(5) 企画・計画中の活動

今後は全体を横断するプロジェクト活動として、社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）に関する読書会や先行研究・社会問題調査の勉強会も企画・計画しています。

4. シニアコミュニティへのいざない

以上の活動内容からもわかるように、当コミュニティは単なる交流の場に留まらず、自身のセカンドライフを再設計し、スキルを磨き、社会に貢献する「実践の場」を目指しています。

表1 年間活動計画（2026年）

活動内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全体サロン (毎月第4土曜日)	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
PMI日本フォーラム(3本)			企画(ドラフト作成)		企画作成		公開前版					
サロン1 (お話し会) (ライフデザイン)	▲			▲			▲			▲		
サロン2 (お話し会) (リスキリング)	▲	▲	▲	▲	▲			▲			▲	
サロン3 (お話し会) (社会貢献実践)	▲		▲		▲		▲		▲		▲	
プロジェクト 子供向けPM教育									▲ 9/27	青少年のための科学の祭典		
内部向け勉強会 (仮)ソーシャル・キャピタル												
外部向けのワークショップ			多世代交流パターン・ランゲージ ▲ワークショップ									

- **参加資格**：シニアに興味があれば誰でも参加可能です。
- **費用**：参加無料
- **柔軟性**：オンラインでの開催が中心のため遠隔地からの参加も可能。「成果」を求めても求めなくてもよい「ゆるい活動」として運営されています。
- **積極的な参加**：意欲的な方は、複数のサロンで並行して活動することやプロジェクト活動も可能です。

セカンドライフに一步踏み出し、自己実現と社会貢献の両方を目指したい方は、迷いや不安を乗り越え、新しい一步を踏み出すための「安全なネットワーク」、「刺激的メンバー」とともに当コミュニティで活動しませんか？

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

テクノシステム株式会社

■ テクノシステムについて



テクノシステムは、製造業のデジタル化を支援するシステムエンジニアリング企業です。東証プライム上場の株式会社サラーコーポレーションを中核とするサラーグループの一員として、盤石な経営基盤を有しながらも、その基盤に依存せず、独自の技術力と開発力を活かして新たな市場を切り拓いています。

1984年の設立以来、半導体工場向け搬送システムなどの

設計・開発を起点とし、組立加工やプロセスなど多様な製造現場へのシステム導入を支援しています。30年以上にわたり、搬送システムを受託開発し、複数の製造ラインや建物をまたぐ高精度な搬送制御と自動化を支えるソフトウェアを提供してきました。現在はそれに加え、この経験を通じて培ったノウハウを結集し、製造業のDXに特化したソリューションとして、自社パッケージ「実績班長」の提供とシステムインテグレーションも行っています。

私たちは「現場の課題を満足に変える」というミッションのもと、国内外100社以上の製造現場に寄り添い、デジタル活用のパートナーとしてともに成果を生み出す“伴走型”のプロジェクトを推進しています。

■ 製造現場のDXを実現する製造実行システム 「実績班長」



「実績班長」は、モノづくりの現場にある課題を解決し、DXを実現するために開発された製造実行システム（MES）です。製造現場に特化した製品で、ヒトとキカイの動きをモノの動きに合わせてリアルタイムにデジタル化し、工場の様々な実績を収集することで、製造工程の最適化を可能にします。「誰が、いつ、どの指示を、どの設備で、作業したか」といっ

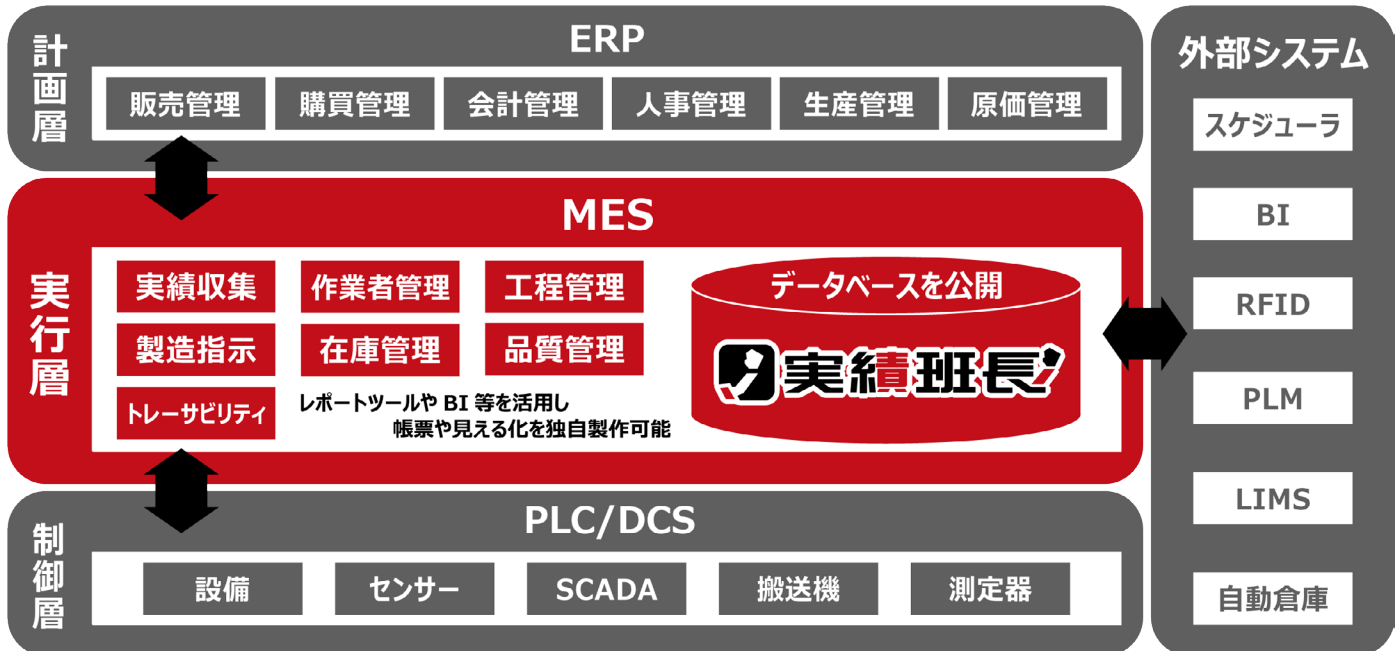
た情報を、その時の設備状態や品質データと紐づけて記録できるように設計されています。これにより、問題発生時の品質改善やトレーサビリティ確保による迅速な原因究明を支援します。

さらに、実績収集・作業管理・工程管理・品質管理・在庫管理など、製造現場で必要となる多彩な機能を一つのプラットフォームで管理できます。また、タブレット操作やIoTによる設備データの自動取得にも対応しており、現場作業者の負担を抑えながら、工場運営の基盤となる正確なデータを漏れなく蓄積することを実現します。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■テクノシステム株式会社

■「実績班長」の特長



「実績班長」は、現場のデジタル化を推進するために、使いやすさ、技術連携、そして高い柔軟性を追求しています。

1. 直感・簡単操作で現場負担を軽減

現場での操作負担を最小限に抑える画面設計になっており、直感的な画面操作が可能です。作業票や日報など、紙に記録していた実績を、必要な時のみ入力することで最小限の工数で登録することができます。また、現品票のバーコードやQRコードを読み取り、品番やロット情報を登録できるほか、はかりやノギスなどと連携し、計量値や寸法の測定結果を自動で取り込むことも可能です。これにより、人の書き込みや転記の手間を削減し、記録漏れや記入ミスを防止します。

また、作業手順書や図面などの紙媒体をタブレットに集約することでペーパーレス化を推進し、最大10言語対応でグローバル展開する製造現場での導入を支援します。

2. IoTによる設備連携・制御

古い設備も新しい設備もIoTでデジタル化し、PLCや制御盤から設備情報を自動で収集します。データ収集だけでなく、収集したデータを活用し、装置を制御することも実現可能です。PLC、AGVコントローラ、計量機、各種センサーなど、多種多様な連携実績から培ったノウハウを活かし、幅広い設備や機器に対応します。

3. 柔軟性と拡張性

パッケージ製品として、標準機能で幅広くデジタル化に対応しつつ、現場の運用に合わせたアドオンやカスタマイズが可能です。さらに、ERPや生産管理システムなどの周辺システムとの連携にも対応しており、100社100様の工場に合わせた最適なシステム構築を実現します。

また、機能単位のライセンス体系のため、最小限の機能から導入を開始し、現場の成長やニーズに合わせて段階的に機能を追加導入できる柔軟な拡張性を備えています。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■テクノシステム株式会社

■導入効果



これらの特長を持った「実績班長」の導入は、現場での着実な業務改善に結びついています。

Ⅰ．リアルタイムな進捗管理による現場最適化

製造実績をリアルタイムに収集することで製造進捗の「見える化」を実現します。これにより、現在の負荷や製造進捗を遅延なく正確に把握できます。万が一トラブルが発生した際にも、即座に対策を講じるための情報を提供し、生産性の向上を支援します。

さらに、最新の進捗情報に基づいて作業計画を適宜修正することができるため、納期遅延の防止や計画通りの生産が促進され、稼働率・可動率の向上に貢献します。

Ⅱ．実績データの一元管理と統合

異なる製品を扱う工場でも「実績班長」での一元管理が可能です。データ基盤が統一されているため、経営層や管理者は各拠点の実績データを容易に比較・分析に活用することができ、その結果を迅速な経営判断に繋がられます。

また、1工場目に導入後、複数拠点へ展開することが可能です。現場や企業の成長とともに長く使い続けられるデータ基盤を構築します。

Ⅲ．デジタル化で実現する3M削減と生産性向上

紙媒体の作業手順書やレシピ情報をデジタル化し、チェック機能やレシピ転送機能で作業ミスの防止を支援します。ミス防止により、手直し・やり直し時間や製品ロスといった「ムダ」を削減することが可能です。

また、実績から日報を自動作成することで、紙（手書き）の日報で発生していた短時間での転記作業のような現場に「ムリ（負荷）」をかける間接作業を削減し、業務効率化を実現します。さらに、在庫状況をリアルタイムに把握し、在庫管理の「ムラ」を改善することで、欠品・過剰在庫の発生を防ぎ、在庫の適正化をサポートします。

「実績班長」は、製造現場のあらゆる出来事を正しく記録・把握できる仕組みを提供することで、食料品から自動車・電子部品、個別受注生産まで、幅広い製造業において現場のデジタル化を支援しています。今後も、MES分野において選ばれ続ける存在を目指し、モノづくり企業のDX推進に貢献してまいります。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■テクノシステム株式会社

■ PMI 日本支部に期待すること

テクノシステムは、これまで大企業から中小企業まで、あらゆる製造業の現場に「実績班長」を導入してまいりました。100社以上への導入を通じて感じるのは、製造現場が抱える問題や背景は現場ごとに異なり、画一的な手法では対応できないということです。そのため、プロジェクトマネージャーには、それぞれの特性に即したアプローチや関与の仕方を見極める柔軟な判断と、経験に基づく対応力が求められます。

こうした力を磨くには、経験を積むことに加え、段階的な学習や他者との知見共有の場が重要であると考えます。PMI 日本支部には、プロジェクトマネージャーの経験レベルに応じて段階的に知識やスキルを習得できる学習機会やコミュニティの提供を期待しております。

さらに、世界標準のプロジェクトマネジメント体系を日本のビジネス現場に適した形へと分解・整理し、理解しやすい形で共有していただくことも期待しております。特に、日本特有の商習慣や組織文化を踏まえた運用上の留意点やベストプラクティスをご提示いただければ、各社の実務への適用もより一層スムーズになると考えております。

【お問い合わせ】

テクノシステム株式会社

〒441-8077

愛知県豊橋市神野新田町字トノ割28番地

<https://www.hancho.jp/>

PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。

詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー／ワークショップ

● 戦略的PMO実践ワークショップ2026

- 日時：1月24日(土) 13:00～17:00
- 形式：リモート開催
- 4PDU

● プログラムマネジメント実践ワークショップ

- 日時：3月12日(木) 9:30～18:00
- 形式：リモート開催
- 7PDU

● 2月度 ディスカバリーセミナー

- 日時：2月21日(土) 10:00～12:00
- 形式：リモート開催
- 2PDU

● 4月度 ディスカバリーセミナー

- 日時：4月17日(金) 19:00～21:00
- 形式：リモート開催
- 2PDU

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI日本フォーラム 2026

- 会場（東京都千代田区）開催：7月11日(土)
リアルタイム配信 : 7月11日(土)・12日(日)

● PMI Japan Festa 2026

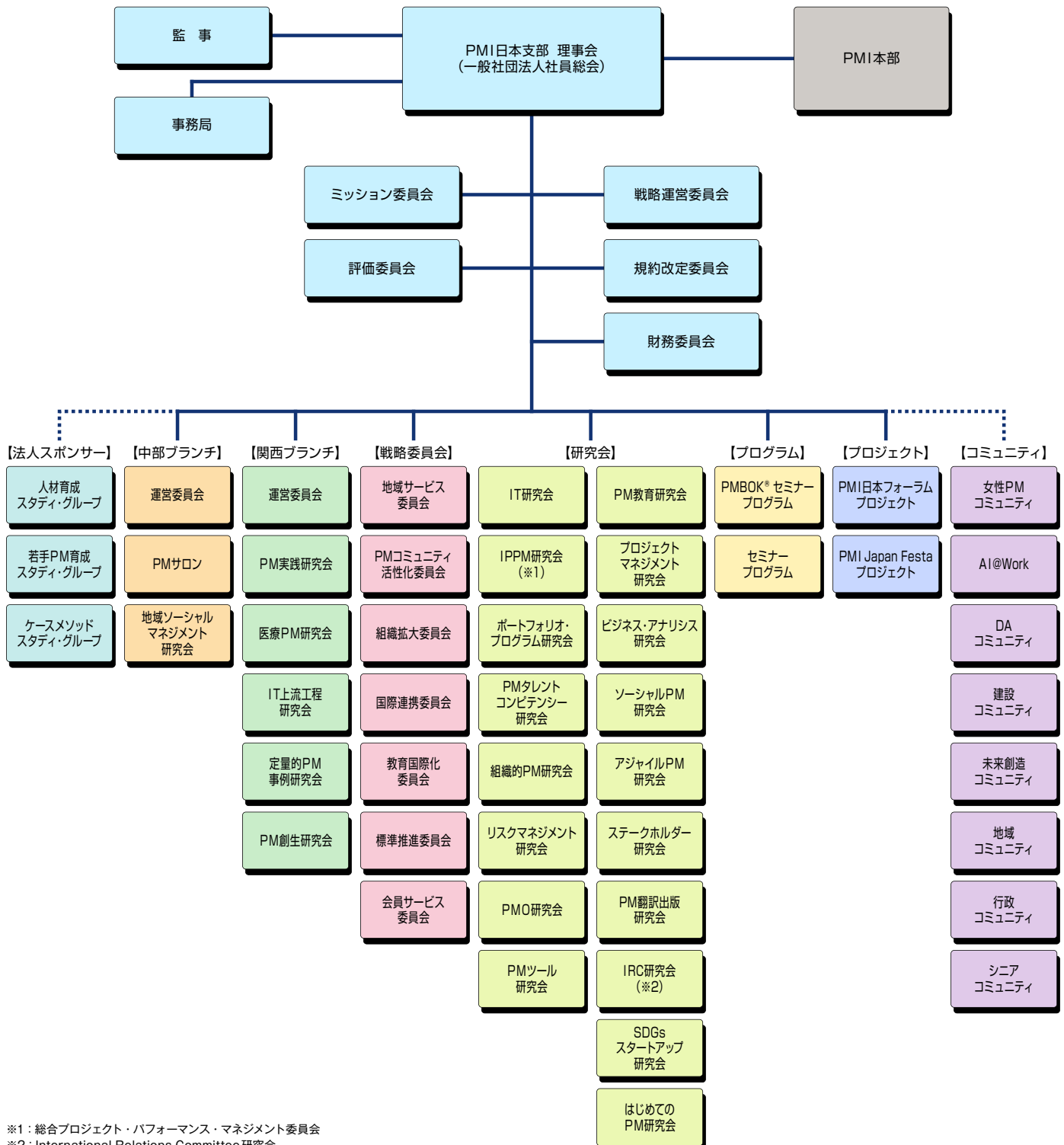
- 会場（東京都千代田区）開催：11月7日(土)
リアルタイム配信 : 11月7日(土)・8日(日)

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(<https://www.pmi-japan.org/event/>)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2025年12月現在)



Fact Database / データベース

■ 理事一覧 (2025年12月現在)

会 長	端 山 毅	株式会社 NTT データグループ
副会長	麻 生 重 樹	日本電気株式会社
副会長	奥 澤 薫	KOLABO
副会長	中 村 亜 子	株式会社パーソル総合研究所
副会長	藤 井 新 吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
副会長	森 田 公 至	DXC テクノロジー・ジャパン株式会社

(以下、五十音順)

理 事	稲 葉 涼 太	TIS 株式会社
理 事	井 上 雅 裕	大正大学／芝浦工業大学
理 事	浦田有佳里	国立研究開発法人情報通信研究機構サイバーセキュリティ研究所
理 事	小川原陽子	日本アイ・ビー・エム株式会社
理 事	奥 田 智 洋	株式会社アイ・ティ・イノベーション
理 事	鬼 束 孝 則	Ridgelinez 株式会社
理 事	金子啓一郎	プロジェクト・ピープル・パフォーマンス研究所
理 事	斉 藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
理 事	坂 上 慶 子	株式会社 日立アカデミー
理 事	杉 原 秀 保	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理 事	アンリ近藤	東京エレクトロン株式会社／ビズフォリオ合同会社
理 事	羽佐間一潮	日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)
理 事	藤 原 慎	株式会社NTT データ先端技術
理 事	松 本 弘 明	株式会社ローソン銀行
理 事	水 井 悦 子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理 事	山 本 智 子	川崎医療福祉大学
理 事	除 村 健 俊	サイバー大学／芝浦工業大学

■ 最新の会員・資格者情報 (2025年11月31日現在)

会員数 (人)	
PMI 本部	日本支部
763,502	7,397

PMP® 資格保有者数 (人)	
世界全体	日本在住
1,651,135	52,575

なお、日本や各国の PMI 認定資格者数は PMI 本部 Web サイトの Certification Registry でご覧いただけます。

<https://www.pmi.org/certifications/certification-resources/registry>

■ 行政スポンサー (2025年12月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市
- 広島県 福山市
- 広島県総務局 県庁情報システム担当

■ 法人スポンサー 一覧 (120社、順不同、2025年12月現在)

- TIS 株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノン I T ソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTT データグループ
- プラネット株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード合同会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- BIPROGY 株式会社
- JBCC 株式会社
- 株式会社パーソル総合研究所
- 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研 DCS 株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 三菱電機ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- 株式会社 N T T データ アイ
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社 JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社 SI & C
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社 TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS&A 株式会社
- ロジスティードソリューションズ株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- SOMPO システムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS&AD システムズ株式会社
- リコージャパン株式会社
- SB テクノロジー株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルート

Fact Database / データベース

- JFE システムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 大日本印刷株式会社
- プランビュー・ジャパン株式会社
- 株式会社NTTデータ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- NEC ソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社
- エス・エー・エス株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- テルモ株式会社
- TOPPAN エッジ株式会社
- ペルノックス株式会社
- キンドリルジャパン株式会社
- 株式会社ヒューマンテクノシステム
- 株式会社IT プレナーズジャパン・アジアパシフィック
- 富士電機株式会社
- KDDI 株式会社
- フラッグス株式会社
- 株式会社JQ
- 株式会社PE-BANK
- 三菱電機エンジニアリング株式会社
- Smartsheet Japan 株式会社
- アイエックス・ナレッジ株式会社
- AKKODiS コンサルティング株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ CCS
- キンドリルジャパン・テクノロジーサービス株式会社
- ネットワンシステムズ株式会社
- PM アソシエイツ株式会社
- Asana Japan 株式会社
- プラニスウェア・ジャパン株式会社
- 株式会社ピーエスシー
- 株式会社ワールドフェイマス
- DXC テクノロジージャパン株式会社
- 株式会社SCC
- テクノシステム株式会社
- INTLOOP 株式会社
- 株式会社MSOL Digital
- 株式会社エイジレス
- 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
- ファインディ株式会社

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (55 教育機関、順不同、2025 年 12 月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学 経済科学部
- 北海道大学大学院 情報科学研究科
- 山口大学大学院 技術経営研究科
- 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学 産学・地域共創センター
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
- 北海道情報大学
- 山口大学 工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科 および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
- 就実大学 経営学部 経営学科
- 神戸女子大学 家政学部家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター

Fact Database / データベース

- 岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット（URA）
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
- 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部
- 福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
- 学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
- 第一工科大学 東京上野キャンパス
- 公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
- 東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室
- 名古屋工業大学 社会工学科 経営システム分野 瀧口研究室
- 日本経済大学 大学院経営学研究科
- 大正大学